

<SDGsの実現はこの手で>

「食品ロス削減推進サポーター制度」を 活かした活動の展開！



SDGs 12 つくる責任 つかう責任

12.3：2030年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食品ロスを減少させる。

取組官庁：農林水産省、環境省、消費者庁、内閣府、経済産業省、文部科学省

我が国では、本来食べられるのに捨てられる食品、「食品ロス」の量が年間522万トンと推計されており、日本の人口1人あたりに換算すると、年間約41キログラムとなります（2020年度推計）。

一方で、家計における食費は消費支出の中で4分の1を占めています。また、食料自給率（カロリーベース）は37%で、食料の約6割を海外からの輸入に依存しています。

また、世界全体においては、世界の食料廃棄量は年間約13億トンで、人の消費のために生産された食料のおおよそ3分の1を廃棄しています。

このように、我が国は食料を大量に生産、輸入しているにも関わらず、その多くを捨てている現実があります。

国連では、食品ロスの削減目標を半分にしており、SDGs目標（12.3）にも掲げられています。

国では、『食品ロスの削減の推進に関する法律』に基づき、消費者庁を通して、食や環境問題に一定の知見を有した「食生活改善推進委員」「環境活動団体」等の会員、地域活動団体ボランティアに『食品ロス削減推進サポーター』を認定することになりました。

認定を受けるには、上記に該当する団体の会員であり、オンライン講座を受講し、簡易試験を受験後、小論文を作成し、合格後、消費者庁に登録することになります。



NPO 法人ふくおか環境カウンセラー協会も団体登録を完了し、5名のサポーターが活動を開始しています。会員各位にサポーターになっていただくとともに、助言を求めてきた消費者、企業や団体に対して、SDGs や社会貢献活動のリーダーとなって、活躍できる事業を展開していきたいと考えています。

理事長 依田浩敏

食品ロス削減ガイドブック（令和4年度版）

https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_policy/information/food_loss/pamphlet/assets/2022_guide_book_7mb_230302_01.pdf

活動報告

SDGs をターゲットレベルまで読み込む

～新宮町での講演から

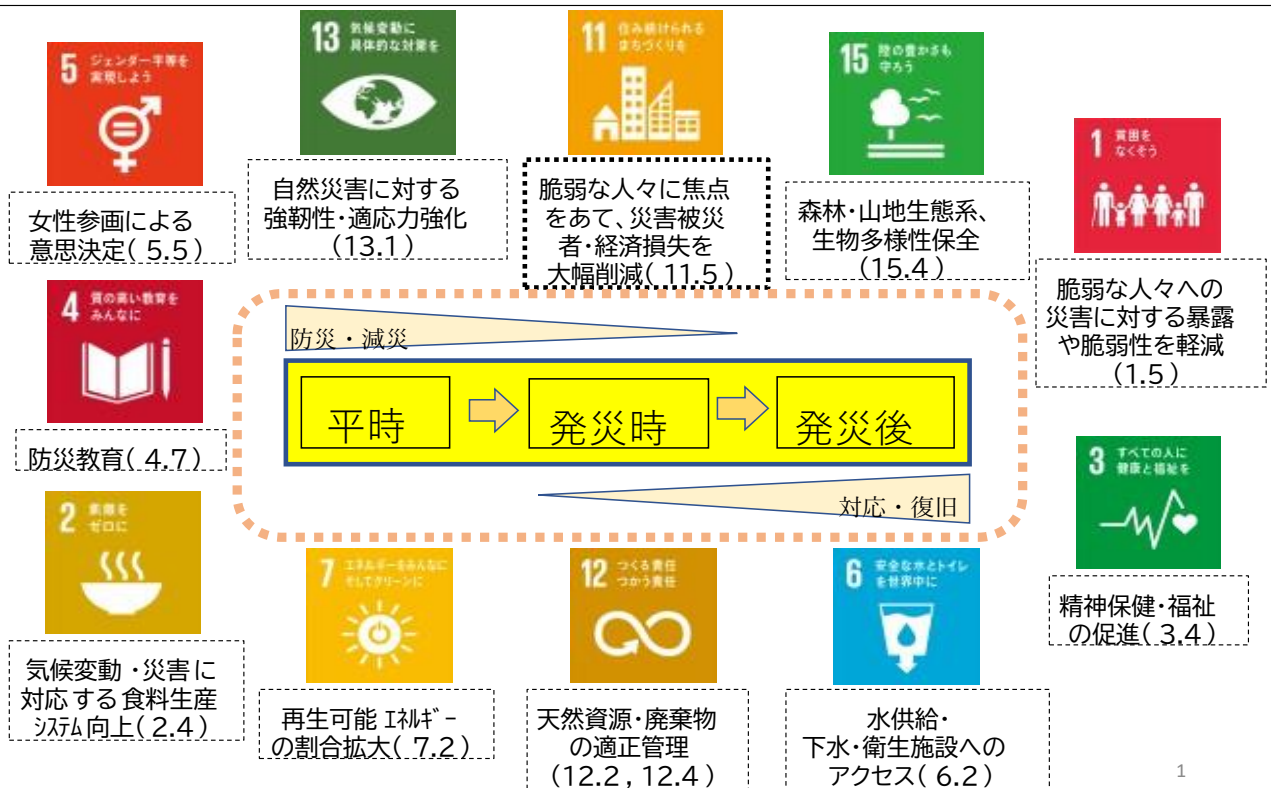
会員 垣迫裕俊

昨年6月、新宮町教育委員会主催の「社会教育関係団体等指導者研修会」において講演させていただく機会がありました。与えられたお題は、「SDGs と防災」です。もともとは、一昨年の夏に予定されていたのですが、コロナ禍で二度延期され、ようやくの開催でした。

ところで、一年前のロシアによるウクライナ侵攻以来、SDGs の話題が急速にしぼんでいるような気がするのには私だけでしょうか。日々失われていく無辜の命、理不尽なインフラ破壊、わが国の深刻な物価高騰、エネルギー源確保の困難さ等の「いまの」「現実の」課題を目の当たりにし、どことなくお花畑的な「SDGs」を語ることが少し憚られるような雰囲気があるような気がします。

閑話休題。皆さまご案内のとおり、SDGs には17のゴールがありますが、このおしゃれな17ゴールの言葉とアイコンだけを見ては十分な理解には至らず、169のターゲットレベルまで読み込むことが大切だと言われています。そこで、私が作成してみたのが次の図です。

SDGs17 のゴールと災害



SDGs の17ゴールの中で、災害と関係があるのはどれだろうと思案すると、一番親和性があるのは、ゴール11の「住み続けられるまちづくりを」ではないかと思えます。しかしながら、他のゴールの各ターゲットを一つ一つ読み込んでいくと、多くのターゲットが災害・防災に関係することがわかります。

この作業を通して、近年問題になっている避難所での女性や障害のある人への対応を平時から考えておくこと、日々の防災教育、レジリエンスを高めるための分散型エネルギー源の配置等々、防災・減災の備えから災害後の対応・復旧まで、多くのフェーズでの課題が169ターゲットから読み取れることがわかり

ました。SDGsの169ターゲットは、さまざまな社会課題への多様なアプローチの可能性を発見するためのツールになる、そんな気づきを得られた講演会でした。

活動報告

「ばんだごおら」の危機 再び！

学会員 植木康太

私たちの街、田川市のオアシス「ばんだごおら」は、市街地の中の少ない水辺で、潤いに満ち、自然がいっぱいの河原です。昔から魚や鳥たち、バッタやトンボたちが、そして子供たちが歓声を上げていた河原。この広場は、田川市民の憩いの場として開かれてきましたが、2021年、遠賀川河川事務所が突然アスファルトを張ってしまうとの情報で、ことは始まりました。子供たちの環境教育の場であり、市民のオアシスでもあり、英国の産炭地ウエールズ発祥の「グラブワーク」手法を見習いながら、1993年から大切にしてきた河原です。利用する方々が何か協力できる仕組みが必要と考えました。



本来、この広場は田川市市民広場条例で設置された市民広場であり、市が管理する義務がありますが、市の財政も厳しくなった現状ではすべてを市にやってとは言えない状況となっています。

全国にはこのような発想で素晴らしい空間を創造している場所がたくさんあります。この大切な市民広場の利用・活用で生活をエンジョイするため、みんなで知恵を出し合いませんかと、区民、隣組等に図りましたが、

「草刈りとかゴミ拾いは嫌だ」と、協力はとりつけられませんでした。

そこで「NPO 田川未来塾で管理するから、アスファルトにしないで！」とお願いをしたところ、遠賀川河川事務所は、一部をアスファルトは止めて、NPO 田川未来塾が管理するという条件付きで芝生広場に変更してくれました。



現在、それから一年近くが過ぎ、草もじき生えてくる中で、草刈機でこの広さを刈らなければなりません。九電未来基金などに草刈り機の補助を申請している状況ですが、補助が付けばいいのですが……。ともあれ、芝生広場は完成しました。

活動報告

北九州エコライフステージ 2022

～みんなで一緒に作ろうよ。脱炭素社会・私たちの北九州～

若いお父さんが「エコふぁみ」アプリをインストール！

会員 森本美鈴

2022年11月19(土)、20(日)に「北九州エコライフステージ」が3年ぶりに対面で、会場も勝山公園大芝生広場に変更されて開催されました。当協会は福岡県地球温暖化防止活動推進員北九州・京築地域連絡会と共同ブースで、地球温暖化防止のパネル展示及びクイズを実施し、参加者に自分事として捉えてもらうために、一緒に答え合わせをしながらライフスタイルの変革について考えてもらいました。



今回、特徴的であったのは小さな子供を連れた家族が多く、とりわけ福岡県が行っている電子環境家計簿「九州エコファミリー応援アプリ(エコふぁみ)」のアプリを、その場でイン

ストールする若いお父さんが多かったことです。これは、インストールして、我が家の電気、ガス、水道、ガソリン、灯油などの使用量、金額等の記録をつければ、我が家のCO2排出量をはじめ、前年度や九州全体の平均値などとの比較も瞬時にわかるのです。「お知らせ」には、講座やイベントの情報もあります。



「エコふぁみ」画面

この「エコふぁみ」は、2021年に、その対象が九州7県に拡大されました。また記録する度にポイントが付与され、貯まったポイントで九州の特産品などのプレゼントが当たるくじにも参加できます。みなさん、インストールされていますか？

まだの方は、家庭からのSDGsへの取り組みとしても、ぜひインストールしては?!
ちなみに会員のO氏は2度もくじに当たったそうです。

(<https://fukuoka.karada.live/ecofami/>)

表彰

受賞おめでとうございます！

★環境大臣表彰「令和4年度環境省地域環境保全功労者」★

ふくおか環境カウンセラー協会 理事 森本 美鈴 氏

【主な功績】

市民への体験型環境教育を確立し、多年にわたり市民や途上国研修生の環境人材の育成に尽力してきた。また、広く環境教育の普及に努めている。

役員選挙

次期役員(理事及び監事)選任について♪

選挙管理委員会 委員長 川島 伸治

次期（令和5年度～6年度）理事及び監事の選任の為、協会定款第14条及び細則3条に基づき選挙管理委員会を設置し、令和5年3月6日～20日の間、立候補者の受け付けを行いました。

その結果立候補者は何れも定款に定める定数以内である事から、選挙は行わず無投票となりました。従いまして、立候補者は次回の定期総会における議決（定款第23条6項）で正式に決定します。

☆理事：近藤 哲司、依田 浩敏、森本 美鈴、川島 伸治、大平 裕 以上5名
(定款での定数3名以上10名以内)

☆監事：篠原 貴美恵 以上1名
(定款での定数1名以上2名以内)

事務局より

◆会費納入のお願い

「ふくおか環境カウンセラー協会」は会員の皆様の会費で運営されています。また、全国連合会費も会員数に応じて支出しています。会費未納の方は至急納入してください。

年会費 3,000円 振込先: 郵便貯金総合通帳「ぱるる」

記号 17410 番号: 13271061 名前: ふくおか環境カウンセラー協会

◆準会員 並びに 賛助会員 募集

準会員: 会費(1口2千円) 賛助会員: 会費(1口1万円) 学術会員: 会費なし

発行責任者: 依田 浩敏 (編集責任者: 森本美鈴)

連絡先: 〒813-0017 福岡県福岡市東区香椎照葉2-3-36

TEL/FAX: 092-672-9911 メールアドレス: feca.office@gmail.com <https://fukuoka-eca.org/>